



## 医療連携の広場



### 吉祥寺病院のご紹介

吉祥寺病院 院長 塚本 一



このたび本誌面をお借りして、吉祥寺病院の紹介をさせていただき機会を頂き、心より感謝申し上げます。

吉祥寺病院は昭和29年9月に開設され、調布市の最北端、三鷹市に境を接する深大寺北町にある精神科

専門病院です。開設時は76床の個人病院からスタートしましたが、昭和35年に法人化し、現在病床数は345床です。345床のうち53床が精神科急性期治療病棟であり、残りは全て精神科一般病棟です。当院は精神科療養病棟を持っていないため、長期療養が必要な患者さんの対応は難しいのですが、急性期の方は積極的に受け入れ長期入院になってしまった方の社会復帰活動にも力を入れています。診療圏は調布市、三鷹市、多摩地区の他、隣接する区部や他県（神奈川県など）も入りますが、一番入院依頼の多いエリアは世田谷区・新宿区などを含む区西部です。平成24年度の年間入院患者数は745名、退院患者数722名、外来患者数は1日平均122名でした。当院にお

ける入院の特徴は紹介率が高いことです。入院の内訳は紹介が58%、外来からの入院が32%、措置入院が7%です。紹介元は近隣にある大学と60軒近いクリニックが中心で、全紹介入院中60%以上となります。また当院は精神科単科病院ということもあり、身体合併症を診る機能を持っていません。そのため周辺の一般病院やクリニックとの病・病連携、病・診連携がとても重要となっています。

当院は平成13年10月に日本医療機能評価を受審し、12月に認定されましたが、その際今まで大切にしてきた事項を基本理念とし明文化しました。

当院の基本理念は

「患者様やご家族の側に立った医療」

「患者様の社会復帰を目指す医療」

「全職員相互の力を発揮できる医療」

の3つです。

「患者様やご家族の側に立った医療」としては、特に家族支援に力を入れています。「家族会」「家族教室」「ファミリーサポートセミナー」の3つが家族を支える3本柱です。

「家族会」は昭和40年から始めており、月1回開催しています。年10回は当院職員が講師を務め、1時間講演し



個室



4人室



外来待合室



院庭で



中庭

た後1時間ディスカッションするというスタイルを続けています。

講演はその時のトピックスをひろい上げ内容を決めており、昨年は家族対象の生活技能訓練（SST）が人気でした。

「家族教室」「ファミリーサポートセミナー」は平成15年より開催しています。

「家族教室」は年3回土曜日の午後を利用し、ご家族の統合失調症に関する理解を深めてもらう目的で行っています。講演時間は3時間であり、医師・薬剤師・精神保健福祉士が各々1時間ずつ担当し、統合失調症の基礎的な話や薬物について・社会資源の利用の仕方などを話します。当院通院中や入院している患者さんのご家族だけでなく、調布市の広報などにも載せて頂き、広く参加者を募っています。

「ファミリーサポートセミナー」は家族の心理教育なのですが、ご家族が肩の力を抜き、生き生きと暮らしていけることを目的にしています。病気の理解が浅いご家族や心理的負担の大きなご家族を選び、6～8名のグループを3グループ程作り、グループごとに毎月1日、計8回の講義とグループワークを行っています。ご家族からの評判はととてもよく、「対処の仕方がわからず不安だったが、少しずつ理解できた」「ほかの家族と話しができて、気持ちかがほぐれた」などの感想を頂いています。

「患者様の社会復帰を目指す医療」としては平成21年より地域移行推進室、SST委員会、訪問看護委員会、デイケア・ナイトケアなどを統括的にみる委員会として社会復帰委員会を設置し、退院促進により力を入れています。

5年以上入院している患者数の5%を退院させると（5年以上入院している患者さんが100人いるとすれば5人）、診療報酬において地域移行実施加算が請求できますが、当院は加算がつく以前より条件をクリアしていました。そのため特に注意せず毎年加算を申請していましたが、平成22年度初めて5%の目標値をクリアできませんでした。対象患者さんが減ってくると、だんだん退院させるのが難しい患者

さんばかりが残ってしまうという現実にはぶつかり愕然としました。しかし職員の努力で翌年は目標値をクリアし、24年度も加算を頂いています。また入院から地域へという退院支援ばかりに力を入れるのではなく、地域で生活している患者さんをもっと応援しようとの考えから、平成23年4月より在宅支援室や訪問看護などを包括して地域生活支援部を新設しました。そのためか訪問看護件数は順調に伸びています。

「全職員相互の力を発揮できる医療」としては毎朝8時45分から始まる会議に、院長、副院長、看護部長、事務長、全勤務医、全師長、相談室長が集まり、1日の入退院者、転棟、保護室の使用状況、拘束患者さんの状態などの情報を共有しています。

またチーム医療としての取り組みにおいては、急性期治療病棟での心理教育プログラム、SST、地域移行支援、デイケア・ナイトケア、訪問看護など多職種チームで対応しています。

このように基本理念に沿った病院運営をしてきましたが、平成21年より新しい試みとして病院の多職種が主体となって活動する「やりがいプロジェクト」を始めました。「やりがいプロジェクト」とは経営目標を定め“統合失調症に日本一強い病院”“職員にとって働きがいのある病院”を目指すという院内プロジェクトです。構成メンバーは部課長クラスの職員で、営業・ブランディングの確立などの対外的な活動を行うAチーム、入院受け入れ体制の構築などの院内のシステム作りを手掛けるBチーム、プロジェクトの方向性を病院全体に周知・共有する役割のCチームの3チーム体制です。経営を安定させ、医療の質を向上させ、職員が働きやすい病院にしようと全職員を巻き込んだ取り組みである「やりがいプロジェクト」は5年間で1クールと考えていますので、今年度で最終年を迎えますが、今までの経過を振り返りながら、より良い病院にしたいと願っていますので宜しくお願い致します。